テンプス

２０１１年（平成 23 年）44 号

現在の願泉寺境内のようす

本堂の彩色

表門の龍の彫刻

本堂の素屋根建設

も　く　じ

願泉寺の平成の大修理が終了
古絵図をひも解く
願泉寺境内の発掘調査
平成 22 年度の埋蔵文化財調査
貝塚市の風景～文化財防火訓練のようす～

修理前の願泉寺境内のようす

願泉寺の平成の大修理が終了

重要文化財願泉寺本堂他５棟半解体修理事業は、本堂・表門・鐘楼・北築地塀・南築地塀・目隠塀の６棟を対象として実施されました。約７年をかけた修理事業は平成 22 年 12 月で終了しました。今回のテンプスでは、修理を終えた願泉寺の重要文化財建造物について紹介します。

本堂

本堂の修理工事は半解体修理で、修理工事にともなう各種調査およびその検討の結果、江戸時代宝暦年間（1751 ～ 1764 年）におこなわれた修理時の姿に復原されました。

外観の修理工事は、柱等の小屋組を残した状態まで一度解体し、木材の補修や交換をした後、再度組み立てがおこなわれました。また、屋根瓦は全面的に葺き替えられ、現在の外観からは屋根の正面中央部に再利用された古い瓦が葺かれているようすがうかがえます。

本堂の側面部（北側から）

本堂の屋根（正面）

本堂の広縁部　※蔀戸（しとみど）等の建具や彩色の修理もおこなわれました。

内部の修理工事は、内陣・余間の各部にほどこされた彩色の復原のほか、金箔押しや漆塗り等がおこなわれました。各部の彩色は後世に塗り替えられた現状の彩色をはぎ取った（詳しくはテンプス 35 号参照）後、その下にあった本来の彩色が再現されました。また、天井部分は天井板絵に貼られた紙貼りの絵をはがした後、天井板に直接描かれていた本来の絵が再現されました。こうした結果、寛文３（1663）年から翌年にかけての本堂再建当初の内陣・余間の極彩色や金箔が数百年ぶりに復原されました。

彩色をはぎ取った直後のようす

彩色の復原作業のようす

復原された内陣の彩色

本堂の内部（矢来・外陣）

本堂の内部（内陣）

本尊の宮殿（左）と親鸞聖人像の厨子（右）

表門

表門の修理工事は屋根替え部分修理で、屋根瓦の葺き替えや控柱の足元を継いでいる石材の交換等がおこなわれました。現在の外観は、御坊前通り（門前の道路）側の屋根に再利用された古い瓦が、境内側の屋根に新しく製作された瓦が葺かれているほか、龍の彫刻をはじめとした各部の彫刻の彩色が復原されたり、金具類や敷き石等が取り替えられ、装いを新たにしています。

鐘楼

鐘楼の修理工事は屋根替え部分修理で、屋根瓦の葺き替えのほか、柱等の木材の交換や基壇の部分解体等がおこなわれました。現在の外観からは、瓦が葺き替えられ、柱や石材の一部が新しくなっているようすがうかがえます。

築地塀・目隠塀

築地塀は表門の北側・南側とも、本堂等の修理に先駆けて修理工事中の車両等の進入路を確保するために、その大部分が一旦解体され保管されていました。また、目隠塀は今回の修理事業に先立って解体され保管されていました。いずれも木材の補修や取り替えをおこないながら再度組み立てられ、元の姿に復原されました。現在の外観からは、瓦や漆喰（しっくい）壁が新しくなっているようすがうかがえます。

現在、願泉寺境内は一部を除いて自由に見学することができます。外観のみの見学となりますが、お近くを訪れた際にはぜひ平成の大修理を終えた願泉寺の各建造物をご覧になってください。

※願泉寺では、平成 23 年 3 月 13 日（日）に本堂等の落慶法要がおこなわれ、関係者にはじめて本堂内部が公開される予定です。

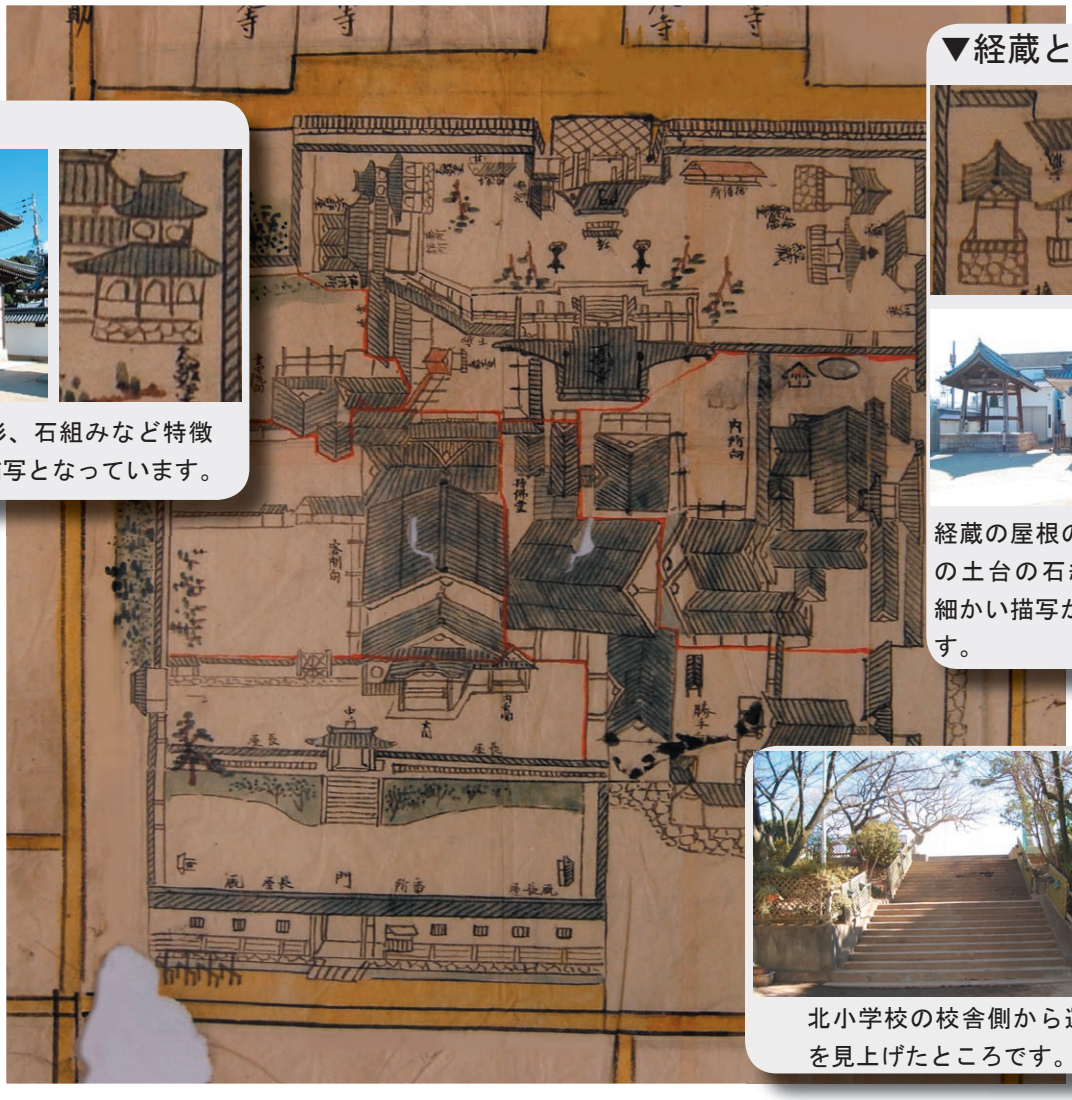
古絵図をひも解く

◆貝塚寺内絵図（19 世紀）

この絵図は、江戸時代の貝塚寺内を描いた絵図の一つです。願泉寺の境内を詳しく示したもので、それぞれの建物を俯瞰（ふかん）する斜め上からの視点で描いています。正面に位置する本堂と表門の構図、境内東角にある太鼓堂、南側に位置する経蔵などは現在のこされている建物の特徴をよくとらえています。絵図と写真との比較から実際の建物をスケッチしたと考えられます。

▼本堂と表門の構図

本堂前の灯籠、目隠塀、松などの植栽は、修理以前の状況に近く、表門の下の石畳など細かい描写が伺えます。



▼太鼓堂

屋根・窓の形、石組みなど特徴をとらえた描写となっています。

▼経蔵と鐘楼

経蔵の屋根の形、鐘楼の土台の石組みなど、細かい描写がみられます。

北小学校の校舎側から運動場を見上げたところです。

この絵図は、現存しない建物を再現させる重要な手がかりであり、貴重な風景資料です。絵図の左手から下方にかけて、現在は貝塚市立北小学校となっており、校舎と運動場の間に横たわる段丘は当時の様子をしのばせるものです。

願泉寺境内の発掘調査

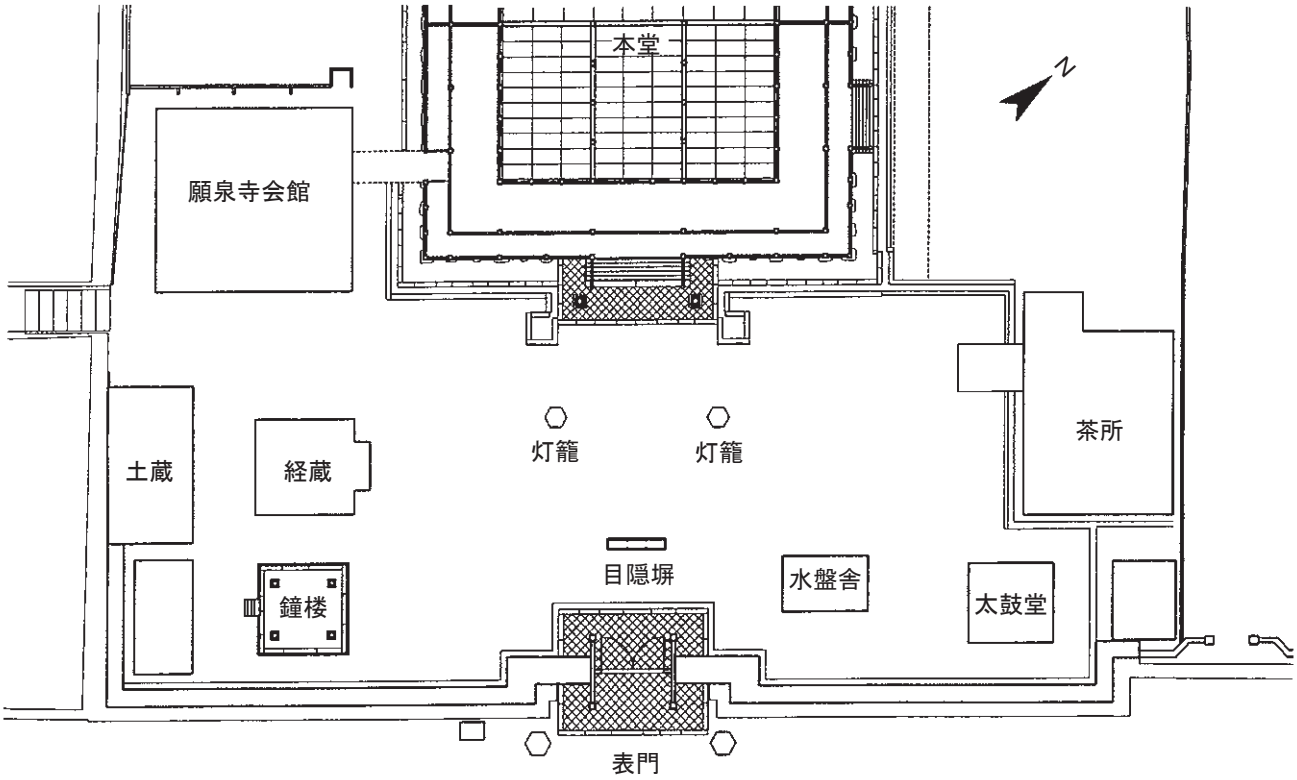
平成22年12月に重要文化財の本堂他の修理が終了し、境内の整備工事に先立って発掘調査をおこないました。調査は、本堂の正面部分に幅1.5ｍ、長さ20ｍの調査区を設定しました。調査の結果、現状の地盤から約20cｍで自然の地層を確認し、地盤を削り取って整地していることがわかり、これまで確認されていなかった２条の溝を発見しました。

慶安の絵図（1648年）

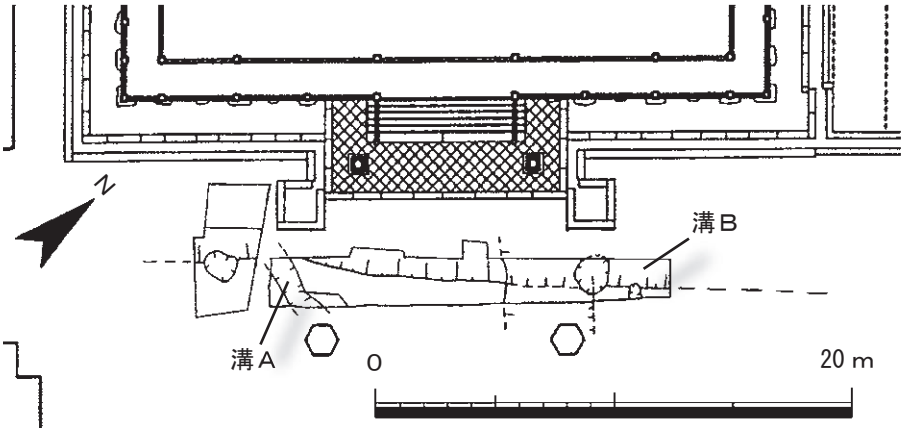
東西方向の溝Ａは、幅1.2ｍ、深さ1.4ｍで溝の中から瓦の破片が出土しています。溝の中の堆積状況からは、水が溜まったり、流れたりした形跡がないことがわかりました。

一方、本堂に近接して発見した溝Ｂは幅３ｍ以上、長さ20ｍ以上、深さが約２ｍあることがわかりました。溝の規模から、願泉寺の周りに掘削された堀（濠）と考えられますが、現在の本堂の基礎部分にまで広がり、建物にかかること、貝塚寺内町最古の絵図（慶安の絵図、1648年）に記されていないことから、それ以前に掘削されたものと推定できます。堀の中からは瓦の破片が出土しており中世末のものと考えられます。古文書によると文禄３（1594）年に当時の岸和田城主小出秀政によって寺内町の堀が埋められたという内容のものがあり、この時に埋められた堀の可能性があります。

今回のような発掘調査の積み重ねによって、不明な点の多い貝塚寺内町の成り立ちや発展について今後も明らかになっていくことでしょう。



願泉寺境内配置図



調査で発見した遺構

遺構検出状況

発見した堀と考えられる溝（左：平面、中央：断面）

発見した溝のようす

平成 22 年度の埋蔵文化財調査

平成 22 年度の発掘調査は、平成 23 年 1 月現在、遺跡内の確認・発掘調査を 12 件、遺跡範囲外の試掘調査を 5 件実施しました。今年度は宅地造成や住宅建築件数が減少しており、昨年度の同時期と比べると 10 件以上の減少となっています。

調査では、貝塚寺内町遺跡の調査が 5 件で最も多く、特に願泉寺境内の調査を 2 回実施しており、溝・堀の発見（6 ページ参照）が大きな成果です。

また、中世の須恵器、白磁などが王子西遺跡で出土していますが、他の遺跡調査では遺物の出土もなく、遺構も確認できませんでした。

遺跡範囲外の試掘調査では、遺物の出土もなく、遺構などを発見することはできませんでした。

遺跡名	調査件数	調査面積（㎡）	遺跡名	調査件数	調査面積（㎡）
貝塚寺内町遺跡	5	45.30	地蔵堂廃寺	1	4.50
加治・神前・畠中遺跡	1	18.00	水間二ノ戸遺跡	1	11.25
王子西遺跡	1	13.75	長楽寺跡	2	12.50
橋本遺跡	1	9.20	遺跡外	5	191.50
合　　計				17	306.00

平成22(2010)年度発掘調査一覧表（平成23年1月末日現在）

貝塚市の風景

～文化財防火訓練のようす～

孝恩寺での防火訓練（昭和38年）

願泉寺での防火訓練（平成16年）

昭和24年1月26日、奈良県の法隆寺金堂から出火、国宝の十二面壁画の大半が焼損したことを機に、昭和30年から毎年1月26日を「文化財防火デー」と定め、この日を中心として貴重な文化財を火災・震災・その他の災害から守るため、全国的に文化財防火運動を実施しています。

貝塚市では、毎年この時期に防火訓練を国宝観音堂（釘無堂）のある孝恩寺や重要文化財建造物のある願泉寺でおこない、広域的な住民の文化財に対する防火・防災意識の高揚に努めてきました。

本年は、1月23日（日）に孝恩寺で第57回文化財防火デー防火訓練を実施しました。

孝恩寺での防火訓練（平成23年1月23日）

かいづか文化財だよりテンプス44号

平成23年2月28日発行

貝塚市教育委員会

〒597-8585　貝塚市畠中1丁目17－1

Tel（072）433-7126　Fax（072）433-7107

Email:shakaikyoiku@city.kaizuka.lg.jp

印　刷：㈱帯谷印刷所

※テンプスとはラテン語で「時」を意味します。

年4回発行：各1,000部

印刷単価：　48.09円

広告募集中

50mm × 80mm（最終ページ）　1枠

50mm × 175mm（2～7ページ）　6枠

詳しくは社会教育課文化財担当までお問合せください。